地域連携室 “あざれあ” 便り　第 91 号

街路樹が一気に色づきはじめました。猛暑の夏が過ぎ、涼やかな秋の訪れを感じます。

今月は、軌道にのってきた「ケア帽子有志の会」の活動と、毎年医療機関等にお届けしている「資源マップ」についてご報告します。

11月

「ケア帽子有志の会」地元紙に掲載

「ケア帽子有志の会は、がん患者さん・家族・支援者のつどい こころの駅舎に参加する乳がん患者さんの発案で発足しました。発案者は、抗がん剤治療中に医療機関でプレゼントされたケア帽子が有難くて、そのことが忘れられなかったそうです。「いつか自分も同じ病気の患者さんに帽子をプレゼントできるまで回復できたなら・・・」そのことが、病気と向き合う力になりました。このがん患者さんの思いに賛同した乳がん患者さんを中心に、有志の会は始まりました。「読売愛と光の事業団」の助成金が採択され、今年の春から活動が本格化しています。現在東広島医療センターを中心に、広島大学病院など広島県内のがん診療連携拠点病院に帽子を送り、必要ながん患者さんに役立てていただいています。

ケア帽子を作製 がん患者に提供

東広島地区医師会

東広島市から委託を受けて東広島地区医師会が運営する、がん患者や家族、支援者たちが集い、自由に胸の内を話し合う「こころの駅舎」。その駅舎に参加する有志が抗がん剤治療で髪が抜けた患者が使う「ケア帽子」作りに取り組んでいる。

乳がん患者の一人が治療中に、看護師からケア帽子をプレゼントされたのがきっかけ。「うれしかった。私も誰かの役に立ちたい」と、こころの駅舎に集う人たちと、一昨年、「ケア帽子有志の会」を発足。毎月1回開かれる、こころの駅舎の時間などを利用して、ケア帽子を作っている。

ケア帽子は、柄が入ったオシャレな帽子から、心が和む落ち着いた色の帽子までさまざま。小児がん患者のためのかわいいつば付き帽子もある。肌に触れる内側は、「地肌がかぶれないように」と、綿100%のニット素材を使用している。

これまでに100個以上の帽子を作製。東広島医療センターなど県内15のがん診療連携拠点病院に通院するがん患者に無料で届けている。帽子を利用したがん患者からは「肌触りが心地いい」「気持ちが前向きになった」などと好評だ。

ケア帽子は、通院していないがん患者も利用できる。詳細は東広島地区医師会地域連携室あざれあ電話082(493)7360。（日川）

がん患者に無料で届けられているケア帽子

プレスネット 2023 年 10 月 5 日号より

近日発送 「東広島市在宅医療・介護・障害福祉資源マップ」令和5年度版

「東広島市在宅医療・介護・障害福祉資源マップ」は、毎年12月に更新しています。冊子は 2200 冊作成し、医療機関の連携室をはじめ、介護・障害福祉関係事業所などに配布し、医療介護障害福祉連携のための相談支援に活用してもらっています。

前半が「在宅医療・介護連携資源リスト」（医科・歯科・調剤薬局・訪問看護事業所情報）、後半が「医療的ケアが必要な方のための資源リスト」（障害福祉サービス事業所情報）の二部構成となっています。余白部分を活用した「ひとくちメモ」や、併設施設の一覧表表記など、相談場面での活用を意識した独自の工夫をしています。（問い合わせ先;地域連携室あざれあ）